

# 阿智村教育委員会 令和元年 11 月定例会会議録

- 会議日時 令和元年 11 月 14 日(木) 午後 1 時 30 分
- 会議場所 阿智村中央公民館 会議室
- 出席者 教育長：黒柳紀春 教育長職務代理：原 勝人（途中退席）  
委員：原 彰彦 委員：熊谷 歩 委員：熊谷恒雄  
【事務局】  
教育次長：熊谷修一（全体進行）  
公民館兼社会教育係長：川上 悟 子育て支援室長：島岡佐喜子  
学校教育係：村田浩一 学校教育専門主事：羽生武彦  
学校教育専門主事 佐々木 豊  
（欠席者 保育園長：原 満 学校給食係長：石原哲成）

## 1 教育長あいさつ

各学校の来年度予算ヒアリングが始まる。今年度は空調設備の整備に約 1 億 5,000 万円という多額の費用をかけ、なんとか年度内に整備した。

来年度は快適な学習環境整備ができればと考えている。教育委員会には当面する課題が 5 つある。まずは複式学級の導入、2 つ目は通学合宿の改善、3 つ目は浪合保育園の自園給食について、4 つ目は浪合小学校の公務災害事故について、最後は阿智中クラブのチャレンジゆう ACHI 移管について、である。いずれも適切に対応してまいりたい。

## 2 協議事項

### (1) 阿智村入学資金貸与条例の一部を改正する条例（案）について

- ・教育次長説明

(熊谷恒雄委員)

条例はどのくらい利用されているか。

(教育次長)

高校入学時 20 万円、大学入学時 100 万円。阿智村の所得の平均以下の方が該当。昨年は 7 名、例年 6 人～7 人、少ない時は 3 人程度の年もある。

- ・原案承認。

### (2) 教育委員会関係 12 月補正予算について

- ・教育次長説明

(熊谷恒雄委員)

広域入所委託料とは何か。

(教育次長)

例えば、阿智村に住んでいる子どもで飯田市の保育園に入る場合、保育料として保護者から阿智村が受け取るが、委託料として阿智村が飯田市に委託料を支払う。当初になかった分を計上したもの。

(熊谷恒雄委員)

広域入所者は何人くらいいるのか。

(教育次長)

3人です。

(原彰彦委員)

米飯の関係はそれぞれの保育園で炊くということで、設備は良いが人は大丈夫か。

(教育長)

不足している所は調理員の募集をかける。保育園の要望を聞きながら人数調整をしていく。

(原彰彦委員)

保育園の先生には負担はかからないか。

(教育長)

調理員と栄養士がいるのでその人員で対応していく。

(熊谷歩委員)

保育園でご飯を炊くことで仕事が増えるのではないかと共同調理場の調理員が心配していた。

・原案承認。

(3) 要保護・準要保護児童生徒の認定について (非公開)

・原案承認。

(4) 複式学級編制の基本的な考え方について

・羽生学校教育専門主事説明

(原勝人委員)

基本的な考え方については、今回定めたのか従来あったものなのか。

1学級3名、片方が合致すれば考え方に沿って行うのかどうか知りたい。

(羽生学校教育専門主事)

この基本的な考え方は今回初めて提案しているもの。具体的な数字で3という数字になれば原則複式学級を検討するが、合算したところが大事になってくると考える。単級が3名以下であれば検討の対象にはなる。

(教育長)

人数によって複式学級にするということは、そのクラスだけでは複式にならない。前後の学級の児童数にもよる。ただ、従来極端に言えばクラスに1人しか児童がいなくても村費加配教員をつけてほしいという要望があった。

(原勝人委員)

3人の提案をいただいたが、妥当性については私自身わからないが、飯田市を含めて複式学級をプラスに考えていこうという考え方を打ち出していく

歩み出しが必要と思う。

(羽生教育専門主事)

3人の根拠ですが、きちんと説明できるものではないが、主体的、対話的な学びということで児童相互が科学的な視点をもって学習を深めていく際に最低3人は必要だと考える。

(原彰彦委員)

委員会に参加させていただいたが、村の考えに概ね賛成。現実を認識することが必要。原則としての数字はあった方がいいのではないかと柔軟に対応するということの具体性をしっかり説明しながら、それに合わせた対応をしていく。懸念されることは職員が減るということ。ここの部分も配慮されている。概ね賛成。

(熊谷恒雄委員)

具体的な形になってきた。私もこの方向でよいと思っている。よかったと思うところを指摘したい。複式学級に対しての考え方が今までの対応と変わった。視点を子供たちの集団に重きを置いて、財政的な理由によるものではないことを。子どもの集団の適性を考えた時に、集団の形態を変えてカバーするというのを地域の方々に丁寧に説明していくことが、保護者の理解を得ることになる。財政的な理由によるものではないというところが大事かと思う。連学年指導の成果のところですが、子どもたちが特定の1人に関わって、小集団で学習するということが自体がよくないと思っている。より多くのいろいろな人に触れることでその集団が変わっていく。子どもに一番厳しい目を持っているのは、教諭ではなく子ども。子ども同士がお互いを高めたり批判したりする力を持たない時に、集団がつかれないとだめだと思う。担任が一番厳しい存在になり得ないところがある。子どもにとって多くの大人の目に触れるということが大事だと思う。連学年、大きな集団を組んで学習していくことは大変良いことだと思う。教職員間で発達特性を持った児童の課題が共有されることはとても大事だと思う。英語の学習などでは連学年の方が教える、教えられる、伝える、伝えられる必然性が出てくるが、同学年の中ではその必要性がない。同学年の中ではその優劣がつくだけ。他の学校の担任、生徒に触れる機会を多くしていくべきだと思う。中学校の体験を4, 5, 6年でやればよいのでは。

(教育長)

2年間でこの委員会を閉じようと思ったが、さらに来年度は他の学校との関わりをどのように発展させていくかを検討課題にすれば、もう少しこの委員会を続けていく必要があると思っている。

(熊谷歩委員)

今このように進めている中で保護者からの声はどうか。

(羽生教育専門主事)

正式に保護者と話をもつのはこれからになるが、間接的に聞こえてくる声は、

保護者は集団が小さいことに関する危惧の方が大きい。この考えを肯定的に受けとめてくれる保護者が多いと思う。

(教育長)

先週清内路の地区懇談会があり、教育分科会は8名くらいのお母さんの出席があり、委員の野村さんも出席しておられた。複式学級の説明をしたところ、お母さん方ほぼ全員から「やむを得ない」「子どもの数が減って学級が小さくなることは社会性を身につける面でマイナス」「学力面でも連学年で授業をしたり他の子どもと関わってほしい」と話された。村外から来られたお母さん方は学力の面を心配しておられ、1人では切磋琢磨ができない、という意見を出されていた。12月に学校職員への説明が終わった後、地域と保護者を集めた説明会を実施して意見をお聞きし、取り入れるところは取り入れながら柔軟に進めてまいりたいと考えている。

(熊谷歩委員)

いずれはこの子たちが大きなところに関わってくるので、人数が多いところで慣れては。大人数の中で活動できる子どもたちになってほしい。

(熊谷恒雄委員)

これで案がまとまって学校現場に預けるのではなく、現場がこの体制をどのように運用していくかを研究して示されればよい。県内で中学校登校、体験入学を1か月間実施しているところがある。

(教育長)

アイデアを出していただいて取り組んでいきたいと考えている。これで確定ではない。議会に説明し、一番は地域と保護者との説明会なので、それを経て定例教委に報告します。

#### (5) 阿智中クラブのチャレンジゆう ACHI 移管について

・教育長説明

(熊谷恒雄委員)

指導料が保護者負担 2,000 円。そんなに負担するなら「よしな」という親がいるかもしれない。教育格差になるのではないか。子どもの立場でいうと本末転倒と感じた。検討中のクラブはどのような理由か。

(原勝人委員)

野球は合同チームでやっていること、柔道は指導者の関係、ソフトテニスも指導者の関係。

(原彰彦委員)

指導者の報酬はチャレンジゆうが支払うのか。

(原勝人委員)

チャレンジゆうが支払う。講座の受講料として月 2,000 円受け取る。他の講座でも指導者に1回 2,000 円お支払いしている。村に支援をお願いしていく。

(原彰彦委員)

基本方針に、年に一度年度当初に説明会をすること、指導者は保護者代表・

校長・チャレンジゆう代表等と懇談をし、教育方針を理解した上で決定していくというような文言を入れる必要があるのではないか。反した場合はお断りするを明記していく。

(原勝人委員)

私も賛成です。文言として入れるかどうかわかりませんが、そのとおりだと思います。

(熊谷恒雄委員)

子ども同士の課題が出てくる。部活をしている子どもとクラブ活動している子どもが途中で分かれるが、中学校の大会に出場する主体はクラブ顧問と部活顧問のどちらか。本来、中体連は部活動の範囲。基本的なところをどう考えるのか。子どもたち同士にわだかまりをつくるような制度にしてはいけない。

(原勝人委員)

学校の顧問を中心に指導が進められて、チャレンジもそれを応援していく。

(熊谷恒雄委員)

割り切れないところは大会に参加させたがる人がいて、それに対して部活顧問の教員がどう参加しなければならないのか。子どもたちをどう守るのか。

(原勝人委員)

明確に言えないところ。チャレンジの指導者がすべての大会に引率できるわけでもなく、教員がすぐに切り替えられるということでもないので、現在、休日の部活動として大会参加を考えている。

(熊谷恒雄委員)

私とすれば適正な運動をどう考えるか明確に打ち出してほしい。

(原勝人委員)

じっくり検討していかなければならないと思う。

(教育長)

チャレンジはあくまで部活動をサポートしていく立場。中心となるのは学校。クラブによってどのレベルを求めるのかがまちまちで非常に難しい。少なくとも教育委員会とチャレンジのスタンスは中学生の生活や運動を支援していくということでないといけない。

(原彰彦委員)

チャレンジは底辺、それ以上は体育協会と思っているが、なかなかうまくいかないのが充実を。一番心配することは保護者がしっかり理解した上でこれを運営していくこと。

(熊谷歩委員)

始まってみないとわからないので、保護者にしっかりと説明してもらいたい。

(熊谷恒雄委員)

新しい体制のスタートなので中学校だけの問題ではない。全国的にみても小学校の社会体育が過熱しており、身体面でも精神面でも人間関係でも大きな問題を起こしている面がたくさんある。それに教育委員会はほとんど関わって

ない。中学校だけでなく全村の姿勢として関わってほしい。

(教育長)

来年4月までに今の部活動指針の必要な見直しをし、新たに文化部の指針も立ち上げていく。

(6) 後援申請について

- ・「わたしたちの街の社会見学 飯田下伊那版 2020 年度版」  
(アド・コマーシャル株式会社)
- ・承認。

## 5 報告・連絡事項

(1) 各係からの報告

- ・児童福祉分科会について (子育て支援室)
- ・第二期子ども子育て支援事業計画について (子育て支援室)
- ・教育支援センター新規通室生の受け入れについて (子育て支援室)
- ・浪合小学校公務災害について (学校教育係)
- ・阿智第一小学校通学合宿について (学校教育係)
- ・第2回英語検定結果について (学校教育係)
- ・教育文化協議会視察について (学校教育係)
- ・浪合保育園「自園給食の提供」について (保育園係)
- ・駅伝大会について (公民館係)

(2) 12月定例教育委員会の開催日について

12月24日(火) 午後1時30分

(閉会 午後4時)

教育長・教育委員 署名・捺印